三六災害50年の取り組みについて

参考資料

■三六災害から50年の懸念
〇経年変化による、災害に対する危機意識の薄れ
〇異常気象等に起因する大洪水や大規模土砂災害の恐れ

■目指すべき伊那谷の将来像
〇地域とともに水害・土砂災害に備えた地域づくりの実現
〇防災活動の推進による地域防災力の向上の実現

■三六災害50年実行委員会（平成23年度）

三六災害50年
地域の防災力向上をめざして

〇忘れかけた記憶を思い起こし、災害の実態を再認識
〇災害を風化させず、教訓として後世へ継承
〇関係機関の情報共有による積極的な啓発活動の推進

三六災害50年の事業展開

シンポジウム、パネル展示、防災訓練、座談会、現地研修会など60団体が100事業を実施。 延べ約14,000人が参加

6月19日　飯田文化会館　約1200名を動員

4月～9月まで伊那谷各地69カ所展示

ロールプレイング方式机上訓練（7月4日 大鹿村）

複数施設で「三六災害を語る座談会」を順に開催

三六災害50年実行委員会『声明』

伊那谷の地域防災力の向上は、自ら、地域から、そして行政との連携で

三六災害アーカイブス

アーカイブ（archive）とは、「記録や資料などをひとまとめにして保存すること」や「そのようにしてまとめられた資料群のこと」、さらには「その保存場所や保存機関のこと」を表す。

記録資料や取り組み実績を活用し将来に引き継ぐ（三六災害50年実行委員会声明より）

災害を語り継ぐ一助とするため、記録資料を地図情報化するなど、地域で幅広く活用されるための情報提供に努めましょう。

伊那谷の地域防災力の向上

↑

災害経験者・伝承者　災害未経験者・未知者

継承行為

行政関係機関

↑

三六災害を想い起こし、
その実態と当時の人々が如何に行動したかなどの
貴重な記録や教訓等の抽出・整理

↑ ↑ ↑ ↑

行政や博物館、図書館、企業や個人が所有する
多種多様な記録資料

平成24年度は、三六災害50年事業で収集された既往資料から
「地図情報化可能な記録資料の抽出・整理（約200項目）」に着手